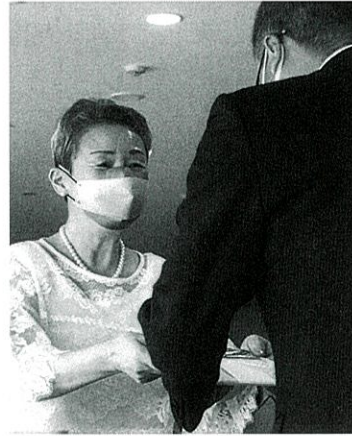


# 伊藤青少年育成奨学会だより



## 高等学校等クラブ活動・地域振興活動

### 令和四年度 助成事業



高等学校等クラブ活動三千四百六十六万円（内運動クラブ二千三百二十九万円、文科系クラブ一千百三十七万円）、地域振興団体一千四百五万円、総額は四千八百七十一万円となりました。

公益財団法人伊藤青少年育成奨学会（田代久美子理事長）は、総額四千八百七十一万円にのぼる令和四年度高等学校等クラブ活動・地域振興活動助成事業を決定、七月七日、可児市大森のパローホールディングス研修センター「嫩葉舎」で贈呈式を開催しました。

令和四年度助成事業への応募団体は、高等学校等クラブが五十四校、百十クラブ（内運動クラブ七十六、文科系クラブ三十四）、助成申請額九千一百一十万円、地域振興団体等二十八団体、助成申請額二千三百二十九万円、申請総額は一億一千四百三十万円でした。この中から厳正な審査選考により、高等学校等クラブ活動三十八校、四十七クラブ（内スポーツクラブ三十一、文科系クラブ十六）、地域振興団体等十五団体を認定。助成額は

贈呈式では、田代理事長が、認定団体を代表して岐阜第一高校スキー部、土岐市少年少女合唱団、恵那西中学校野球クラブの三団体に目録を手渡し、岐阜第一高校スキー部の大場順二総監督が「地域に貢献できる人材育成、県民に夢と感動を与えられる活動を続ける」と謝辞を述べられました。

また、今年は、当奨学会の第十九期（平成三十年度）奨学生、保谷聖耀さん（京都大学四年）を特別表彰しました。保谷さんは二〇二〇年カナザワ映画祭期待の新人監督賞グランプリを受賞、一年間を休学して、グランプリの支援金で制作した映画「宇宙人の画家」が七月から公開されるなど、高い評価を獲得している制作活動をたたえたものです。

伊藤青少年育成奨学会は、活力ある地域社会の実現に寄与するため、パローホールディングス創業者伊藤喜美氏が寄贈した同社の株式を原資に平成十一年十

二月二十七日設立。年間約一億六千万円に及び同社からの配当金を使って、大学及び大学院生への奨学金給付や、高等学校等クラブ活動並びに地域振興活動団体への助成、さらには武道、芸術など日本の伝統文化の伝承に関わる自主事業を実施。令和三年度までの奨学金給付総額は

約八億六千万円、助成事業総額は約五億円にのびります。

七月七日は、パローホールディングス並びに当奨学会の創設者、故伊藤喜美氏の命日であり、これを記念して毎年この日に、高等学校等クラブ活動、地域振興活動助成事業の贈呈式を行っています。

### 被支援団体の紹介

#### 岐阜第一高等学校スキー部

村瀬心桃（当時二年生）さんが、スノーボード種目で二〇二二冬季北京オリンピックに出場し、ビッグエア種目で銅メダルを獲得。同じく二〇二二冬季オリンピックのフリースタイルモーグル種目で銅メダルを獲得した堀島行真君は、同校の平成二十七年卒業生です。



土岐少年少女合唱団  
令和四年に創立五十周年を迎え、これを記念して、「第三回東京公演」を八月十四日、武蔵野市民文化会館で実施。コロナ禍も分散レッスンやオンラインレッスンなど工夫して練習に取り組んだ成果を発表します。助成金は、会場使用料の一部に充てます。



令和四年度の目標は、アルペン、フリースタイルは全国大会優勝、スノーボードはワールドカップ出場とシニリア世界選手権大会の三連覇。助成金は、スキーやスノーボードのエッジ調整や、ワックス塗布に使う機材やスラロームコンバットボールの購入などに充てます。

#### 恵那西中学校野球クラブ

五月に行われた岐阜県予選を勝ち抜き、八月十二日から十五日まで、茨木県水戸市にて開催される「第十二回東日本少年軟式野球大会」に出場します。各地区代表チームの指導者会議に参加し、指導者育成や、少年の健全育成方法などについて情報交換するなど、交流を深めます。助成金は、会議費などに充てます。



# 令和四年度 助成事業 報告書

## 大垣商業高等学校 ソフトテニス部

顧問 上野 豪史



助成金でコートローラーを購入しました。本校テニスコートは、水捌けが悪く、雨が降ると数日は使用できなくなり、コート整備は急務となっていました。

ローラーが届くとすぐにコート整備に取り掛かりました。荒れたコートに砂や土を入れて水を撒き、ローラーで圧接をしました。生徒たちはみるみる改善されていくコートを見て、とても嬉しそうにしていました。コート整備から数日後に雨が降り、誰もが水溜まりができて使用できないと思っていました。整備されたコートに水溜まりはありませんでした。生徒たちは自身で整備した結果がこんなにも早く確認できたことに驚いたのと同じように、大きな達成感を感じていました。現状よりももっと良いコートにするために、毎日練習後にローラーを使用し、コートを大切にす

るよう自分たちでルールを決めていました。これまで、今ある環境を大切にしている気持ちや、施設を使用させていただけることへの感謝の気持ちが薄かったようですが、今回の支援で大切な事を学びました。これからもこの気持ちをお忘れず、今後入部してくる後輩たちにもコートを大切にすることを伝えていきたいのと、これが良い伝統として残っていくことを期待したいと思います。

## 認定 助成事業

### 中津商業高等学校

校長 森岡 孝文

本校弓道部は、女子生徒が多い商業高校の特性で、創部以来、女子部員だけで活動してきましたが、例年男子の入部希望者も多くあり、その都度入部を断ってきました。しかし、弓道が盛んな本地域弓道会からの強い要望もあり、昨年度（令和三年度）から弓道部男子を新設し、男子部員八名を受け入れました。

昨年度は、男子部員も女子用の弓具で練習を重ね、おかげさまで先日の上濃地区高等学校総合体育大会弓道競技では、団体個人とも二位の成績を収めること

### 加茂高等学校 ボート部

顧問 古田 文博

この度は、伊藤青少年育成奨学会 高等学校等クラブ活動助成事業に加茂高等学校ボート部をご指定いただき誠にありがとうございます。おかげさまで、シングルスカル艇を注文させていただきました。生徒はもちろんのこと教職員も大変喜んでおります。

本校ボート部は、学校のモーターでもある「文武両道」を高いレベルで実践しようとして、日々活動しています。来週からは男子一名女子一名、計二名が日本代表としてアンダー19の世界選手権のため、イタリア遠征に行く予定です。八月には男子シングルスカル女子ダブルスカル女子舵手付きクワドルブルの三種目が愛媛県で行われる全国高校総体に出場いたします。昨年度に続き優勝出来るよう日々練習に励んでおります。

また、八月下旬には岐阜県内の小中学生、県ジュニアアスリートにおいても本校の生徒が指導しながら、ボート体験をいたします。強化だけではなく普及にも力を入れながら活動しています。

この度の助成金で購入させていただく艇で、全国大会での優勝を目指すことはもちろんのこと、マイナーな種目のボートを地域に知っていただきながら、なおかつ普及の面にも活用させていただきたいと思っております。多くの方々にボートを体験していただき、その中からオリンピックのメダリストまで繋がるような活動にしていければと考えております。

ボートは大変高価な道具を使用します。いろいろな方々の支えがあつて活動できています。日ごろから生徒にも道具のありがたみ、環境に整備は厳しく指導しております。今回購入できた艇についても大切に扱い、道具への感謝の気持ちを育てていきたいと思っております。

るまでまいりました。一方、競技の特性上、体力に合った道具の使用は大会成績を左右します。また、体力に応じた道具を使用することは、身体能力発達を大きく促し、今後の人生の体力を作ることに繋がります。

体力に即した男子用弓具を使用し、競技的にも身体的にも向上させたいと考えていますが、弓具は非常に高価であり、学校の予算には限度があり、せいぜい毎年一〜二本程度の

弓しか購入することが出来ません。今年度も九名の男子が入部し、二十名近くの道具の手に配に大変苦慮してまいりましたところ、先日貴会からの助成決定の報を拝受し、職員・部員一同、大変有難く、本当にうれしい限りです。

早速、ご支援いただいた助成金で男子用の強い弓を購入させていただき、一層の修練に励み、ご期待に副つように頑張る所存です。



# 『第一回漱玉館杯争奪』

## 『東海女子学生選抜剣道大会』開催

伊藤青少年育成奨学会は、武道場「漱玉館」開館一周年を記念して、十月二十二日(土)に第一回漱玉館杯争奪「東海女子学生選抜剣道大会」を開催します。

出場は当奨学会が選抜した愛知大学、愛知学院大学、愛知教育大学、星城大学、中京大学、中部学院大学、名古屋経済大学、名城大学の八大学女子剣道部。一チーム五人制で、予選リーグを行い、上位四チームによる決勝トーナメントで漱玉館杯を争います。

また、上位四チームから選抜した五選手と、渡辺正行さん(タレント)率いるゲストチームとの特別試合も行います。ゲストチームの他のメンバーは、末永真理さん(第六十一回全日本女子剣道選手権優勝)、佐藤あかりさん(七テール)、佐藤みのりさん(全日本女子剣道選手権準優勝一回)のいずれも有段者と、バローホールディングス所属で全日本女子剣道選手権出場十回(準優勝一回)の竹村奈緒美さん(六段)。武道場「漱玉館」は、当奨学会の創設二〇周

## 大垣商業高等学校弓道部

顧問 小森 升裕

大垣商業高校弓道部は、クレドを導入しています。クレドとは日本語に訳すなら信条となります。部訓に近いものですが、私たちが目指す価値観や行動指針となります。そのクレドの最初の文章は「私たちは人を大切にすることをモットーに日本一を目指して活動しています。」となります。七十名近い部員が目指す方向がこのクレドに詰まっています。

私たちが弓道部はここ数年、国民体育大会や全国競技大会での優勝をはじめ全国大会や東海大会での入賞を数多く果たすようになりました。弓道部の人気も年々高まりつつあり、十年前は二十名程度の部員数でしたが現在は七十人近い部員を抱え、約三倍以上の人数になりました。活動は活発になり、より良い環境での部活動が行われていると感じています。しかし、弓具の不足、活動場所の不足、指導者の不足等の課題があります。また、レギュラーは五人のため、試合の出場機会に恵まれない

生徒が多くいるといった問題も抱えております。こうした問題を解決するためにクレドを導入し、自主的な部活動へ移行し、セルフコーチングで数多く進めていきたいと考えております。

今回の支援では、主に遠的の練習環境の整備ならびに競技用の矢の整備に使わせていただく予定です。

貴財団にはこれまでも幾度も支援をしていただき、その度に練習環境が向上したり、競技力の向上につながってきました。加入する部員数も右肩上がり、今では本校において最も人数の多い部活動となりました。少子化が進み、生徒の定員が減ってきている中で部費が削減傾向にあるのですが、部員数は増加し、練習に必要なものを整備していくことに苦慮している中で、いつも助けていただき感謝しております。部員にも今回の支援についてしっかりと話をし、様々な人に支えられ活動できていることを伝えてまいります。

## リトアニア大使 武道の精神体感…可児市 漱玉館で剣道体験

今年五月に就任した中リトアニア大使

のオーレリウス・ジークラス氏(四三)が四日、可児市大森奥洞の伊藤青少年育成奨学会の武道場「漱玉館」を訪れ、剣道の稽古を見学し

た。

ジークラス氏は三日に岐阜県入りし、この日は杉原千畝ゆかりの八百津町を訪問。田代正美バローホールディングス会長兼最高



後援 (株)バローホールディングス  
多治見市剣道連盟  
共催 公益財団法人 伊藤青少年育成奨学会



経営責任者(CEO)が二〇一八年にリトアニアに経済視察で訪れた際、案内をして交流があったことから、足を延ばして田代会長と伊藤青少年育成奨学会の田代久美子理事長夫妻

を訪ねた。  
リトアニアは剣道や柔道といった武道が盛んで、ジークラス氏は興味深そうに神棚や日本庭園を備えた漱玉館の設備を見学。合宿中の高校生の稽古を見て、自身も竹刀を握った。  
(令和四年八月五日 岐阜新聞)

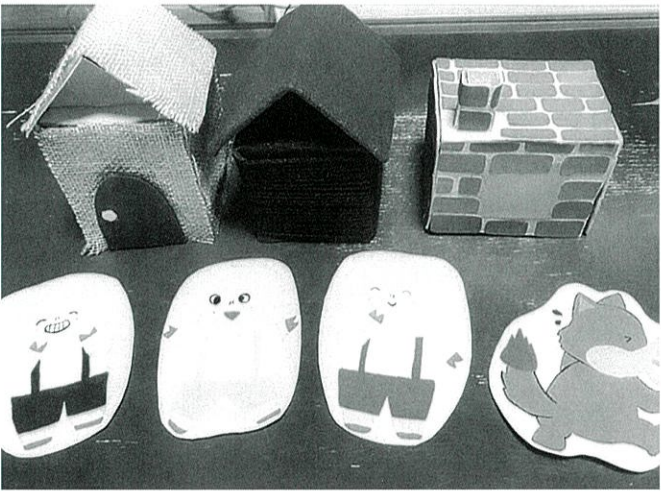


# 奨学生頑張っています

東海学院大学 人間関係学部 子ども発達学科 二年生

久保田 実紗希

一年生の後期から認定絵本士になるための講義が始まりました。冬休みの年末三日間で中講義があり、課題も沢山あったため、大変でした。中でも特に大変だったのが、絵本製作の課題です。『自分の名前の由来』というテーマは決まっているものの、作絵は自分で考えなければならなかったのが悩みました。しかし先生にアドバイスをいただいたり、友人と相談しながら初めて自分の絵本を制作できました。自分の絵本を、絵本作家の方や編集の方に批評をしてい



ただき、とても良い思い出になりました。

同じ講義でもう一つ印象に残っていることは、絵本を使った授業展開を考えたことです。私は『二匹のこぶた』を使った授業を考えました。授業の内容は、こぶたの三兄弟の末っ子がくつしたレンガの家でオオカミから逃げられたことになり、みんなでオオカミから自分を守るレンガの家をつくってみようというものです。初めて授業内容を考えたので悩みましたが、制作している時間は非常に楽しかったです。

岐阜聖徳学園大学 教育学部 学校教育課程 体育専修 二年生

高木 風沙

私は、障がいのある子どもたちが利用する放課後等デイサービスのアルバイトをしています。ここでのアルバイトを始めたのは二月ごろからです。始めた理由は、将来教員になるという夢があり、学生のうちから子どもたちと関わるという経験をしてみたかったからです。放課後等デイサービスは、普通学校の特別学級の子どもや支援学校に通っている子どもたちが利用しています。仕事内容は小学校・中学校や支援学校へのお迎えや、子どもたちと一緒に活動を行うことなどを行っています。私は、人見知りという短所があります。しかし、教員は、初めて会う子どもたちと共に生活します。

東京工科大学 応用生物学部 応用生物学科 三年生

後藤 せら

私の将来の夢は、毛髪トラブルに関係する化粧品を開発することです。そのため、毛髪や化粧品などの専門科目を基礎から応用技術まで学べる講義が充実した東京工科大学に入学しました。三年生前期では、二年生後期の化粧品界面化学という講義で得られた知識を応用した化粧品設計実験を行います。化粧品界面化学では、化粧品は水や油、粉を混合した多相系であること、成分を混合してもやがて分離してしまう現象を対象にしたコロイド界面化学について学びました。化粧品の設計や製造に関わる基礎化学であるコロイド界面化学を、これから実

だから、ここでのアルバイトも、自分から話しかけることを大切にしています。子どもたちも私の名前を覚えてくれて「高木先生」と声をかけてくれる子どもが多くて嬉しいし、いつも行くのを楽しみにしながら、できています。時には、違う子どもにも手を出したり、おもちゃを投げたりする子どももいるので、そのようなときには、厳しく言うこともあります。教員になったら、良くないことは良くないと言わなければならないので、子どもたちへの対応なども学ぶことができます。このように、私にとってここでのアルバイトの経験はすごく良いものになっています。これからも、子どもたちの笑顔をサポートできるように頑張ります。

験を通して理解していきたいです。今までは週に一回だった実験が週に二回になり、予習しレポートでさらに忙しくなるのではと考えています。しかし、この実験で用いられる理論や手法は実際の化粧品メーカーでとられている方法であるため、一生懸命取り組みたいです。



私は三つのサークルに所属しています。化粧品研究サークルと天文サークル、ボランティアサークルです。ボランティアサークルは友人に誘われて二月に加入しました。主なサークル活動としては、高尾山を登りながらゴミを拾った学校行事の準備をしたりします。今年の新入生歓迎会では実行委員を任せられ、サークル紹介のブースを仕切っていました。新入生を誘導する他、予定通りに進行するように会場を歩き回りながら全てのサークルに声をかけ、過度な勧誘を行うサークルの対応をしました。この活動を通してリーダーシップ、コミュニケーション能力を発揮できたのではないかと考えています。

私は将来、商品開発をしたいと考えています。開発や企画の仕事では、デザイン会社とのやり取りの中でデザインが期限までに終わるように平日頃から連絡を取る必要があります。そのためコミュニケーション能力はサークル活動を通して培ったことを就活時の自己PRで使っていく予定です。



小川 真輝

二年生の後期に受講した開発人類学という講義では、いわゆる先進国や発展途上国と呼ばれる国の開発する側、される側という視点に立ち、それぞれの考え、価値観を探った。この授業を受講し、印象的だった言葉がある。それは、先進国、発展途上国という言葉が、経済という一部のカタゴリーからみて、生まれた言葉に過ぎないという点である。何をもちて価値とす

シリーズ 第34回

この本をあなたにも薦めたい

伊藤青少年育成奨学会 事務局長 加納 志貴

『間宮林蔵』

世界地図には、日本人としてただ一人、間宮林蔵の名が刻まれている。シーボルトの命名になる「Mamiya-seoto」(間宮海峡)にある。

『間宮林蔵は、あくまでひとりきりの男であった。』

かれは、自分一個ですべて完結していた。のち、希代の地理的探検家として後世に知られるこの男は、測量もでき、政治情勢、風俗、民情を見る眼力もあり、観察した事物を報告しうる文章力と画才をもっていた。

また、仲間がいなくてもすいしも淋しくなく、むしろ孤独であるほうが目的を達成す

るかを明らかにすることで、国における優劣のつけ方について、私は改めて考えさせられた。当たり前と感じていることをもう一度問い直し、疑ってみることは、人が生きていく上で大切なことである。私はその事をこのような講義を通して学び、同時に主体的に考え、自分なりの答えを出すことの大切さを身をもって感じた。この六ヶ月は私の価値観に影響を与え、学びが多くなり、自身の知見や考えを広げる楽しさをより強く感じられた。

著……吉村昭(よしむらあきら)  
発行：(株)講談社  
昭和六十二年一月 第一刷発行  
新装版：九百九十円(税込)

るのに都合がいいと思っていたし、人間関係に気づけたり、心をわすらわたりする感覚に欠けていた。』司馬遼太郎著『菜の花の沖』より

吉村昭著『間宮林蔵』は、異国船の来航が頻繁となり、「ロンドン事件」や「シーボルト事件」「竹島事件」などが頻発する江戸後期に、北方探検家として、また海岸異国船掛や隠密として、これらと関わりながら生きた林蔵の生涯を描く歴史小説。教科書には載っていない日本史や、日本人が見える。

馬場 大輝

各府県が県民税として課している森林環境税と国が設けた森林環境譲与税のすみ分けを中心に環境政策の調査や勉強に取り組み、市町村の体制整備が進んでいないことなどを明らかにすることができた。また、近年設けられた森林経営管理制度などにも譲与税が関係してい

奥山 颯大



るなど、一つの制度が多く、複雑に関連していることを実感できた。大学の性格上、滋賀を題材とすることが多いが、林政分野は森林の占める割合が大きい岐阜県にとって重要な分野であるように、今後も地元還元するという思いの下、将来につながる勉強を中心に取り組んでいく。

人工島だけではなく、内陸の岐阜県でも、工業団地に造成される森林などに生かすことができるかと考えています。

アルバイトについては、研究室の卒業生の方が環境調査機関で働いており、そこで、森林での調査結果のデータを解析するアルバイトをしています。私の卒業研究は、その先輩が行っていた研究の流れを汲む研究で、調査機関でも同じようなことを行っている、自分の専門知識を生かしながら、研究方法を勉強することができています。

私の所属している研究室は森林についての研究室で、私は神戸の人口島に造成された森林について研究しています。研究結果からは、今後、造成される人工島での緑化方法についてや、人工島での森林生態系についての知見が得られるかと考えています。これらの知見は、

また、研究室の先生のおかげで、有償の長期インターンをしています。インターン先では、未利用資源である広葉樹材を有効に活用するためのプロジェクトが行われており、そのプロジェクトの一員として参加しています。岐阜県においても放置された広葉樹林が多くあるので、私が参加しているプロジェクトが岐阜県の放置広葉樹林の有効利用に繋がれば良いと考えています。



# 奨学生頑張ってます

山梨大学 医学部 看護学科 四年生

## 岡本 結良

私は高校生の頃から助産師になりたく、

大学の助産専攻に行くことを目指し、大学に入学した。一〜三年生の前期まで授業にて看護師についての知識を学び、三年生の十月から臨床看護学実習でさらに学びを深めていった。そして、三年生の十一月に助産学専攻の選抜試験があり合格することができた。今は看護師+αで助産師としての知識を学ぶため、授業や分娩見学をさせて頂いている。そして七月より実際に自分で分娩を介助する実習が始まる。産婦と胎児両方の命を預かる仕事であるため、緊張しているが知識を頭に入れて自信をもって実習に臨め

高崎経済大学 経済学部 国際学科 四年生

## 長谷川 千晴

昨年一年間休学しておりました。休学期間においては、環境問題について学びを深めました。環境問題対策が進んでいる沖縄に移り住み、フィールドワークを通して、環境問題に対する学びを得ました。自らが環境問題改善の取り組みとして企画を立て、実行を試みました。例えば、「ゴミ問題に対して、ゴミ拾いの企画を行い、現地の方と共に、海沿いのゴミを拾ったり、ファストファッション問題に対しては、古着交換の企画を行った

るようになりたい。また、一月には看護師保健師助産師三つの国家試験があるため今から勉強し、合格できるようにしたい。

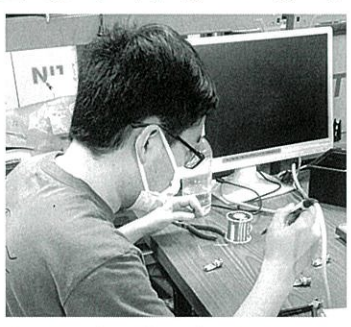


りなごです。また、社会問題を改善するために、自分が何をできるのかを考えた時、一番力になりやすいのは、資金の支援なのではないかと考え、自らが得意とするイラストを商品化、販売し、その利益100%を、沖縄で社会問題改善に取り組む二社に寄付するなど、主体的に活動しました。これらの活動を通して、問題に対して前向きな姿勢で取り組むことの重要性和、書面上だけの学びではなく、実際に行動に移すことで得られる学びがあるということを学びました。

中部大学 工学部 宇宙航空理工学科 四年生

## 鬼頭 浩志

古典力学や現代物理学について勉強しました。私の研究テーマは、太陽活動によって引き起こされる現象を「ミューオン」という素粒子を利用して観測するというもので、理論的というよりかなり実験的なテーマです。しかし、実験は理論を基礎としているため、実験のみならず物理学の理論体系の獲得も行っています。元来私は工学部生ということもあり、必要最低限の理学的知識しか持っていなかったが、難解な現代物理学の理解には大変苦戦しています。そのため学習の進展はゆっくりですが、学問に対する好奇心から学習は着実に進んでいます。春休みが明けた四月からは実験の準備が始まりました。本格的な実験は早ければ六月から始まる予定ですが、現在はそのに向けてデータ処理の学習や実験器具の作製を行っている段階です。今回添付する写真は放射線検出器に利用する配線の接続部（プローブと呼びます）の作製中の様子を撮ったものです。出来るだけ早く実験器具を用意するため、またなるべく実験にかかるコストを削減するためにこうした実験器具の作製を行います。



直近六ヶ月間、私は改めて生活状況を改善するため、古着交換の企画を行った

善するため幾つかの取り組みを行ってきました。取り組みの一つが運動の習慣の定着です。二年ほど前から運動する時間は設けましたが、あくまで時間のある時に運動するという程度で、故に週に一〜二日運動する程度にとどまっていました。しかし依然として流行中のCOVID-19から身を守るための体力をつけるために、またより健康的な習慣を定着させるために毎日運動するようになりました。具体的には、毎日一時間程度のランニング及び筋トレを実施する様にしました。最初は週あたりの運動量を増やした影響から、度重なる筋肉痛に悩まされましたが徐々に体力及び筋力がついてくると共に、ランニングの距離が伸びまた一度にできる腹筋運動や腕立て伏せの回数が増えてきました。もう一つの取り組みが食事の見直しです。以前から自炊をしています。したが、食事について再考する機会があったため自分の献立を見つめ直してみました。そうしたところ、私の料理は炭水化物と肉の占める割合がやや多すぎることになりました。そこで、献立に必ず野菜を取り入れるようにし、また肉も脂質の少ない鶏むね肉をメインにしました。さらに、夕食の炭水化物の量を極力抑えるようにしました。これらの運動と食事における改善により、私は3kgの減量をすることができました。この調子で生活改善に努めていきたいと思います。

直近六ヶ月間、私は改めて生活状況を改善するために、古着交換の企画を行った